



大加良久羅

一

特別
~ 5
6044
1



十五

印

黄文をいへりては...
 眼...
 物...
 時...
 彼一瓢を...
 上...
 黒...
 志...
 其...
 寛文十一年二月...



印

寶藏卷之一目錄

- 一 惠比次大黒棚 あひびしだいこくろ
- 二 白表具 しろひょうぐ
- 三 紙 かみ
- 四 筆 ふで
- 五 分廻 ぶんまわし
- 六 硯 すずり
- 七 机 つくえ
- 八 文筆 ぶんぶ
- 九 兎玉 うさぎたま
- 十 朝鞆 あしたづま
- 十一 茶籠 ちやろう
- 十二 土左 つちざ
- 十三 半袴 はんかま
- 十四 枕 まくら
- 十五 焼産 やうさん

寶藏卷之一

一 惠比次大黒棚

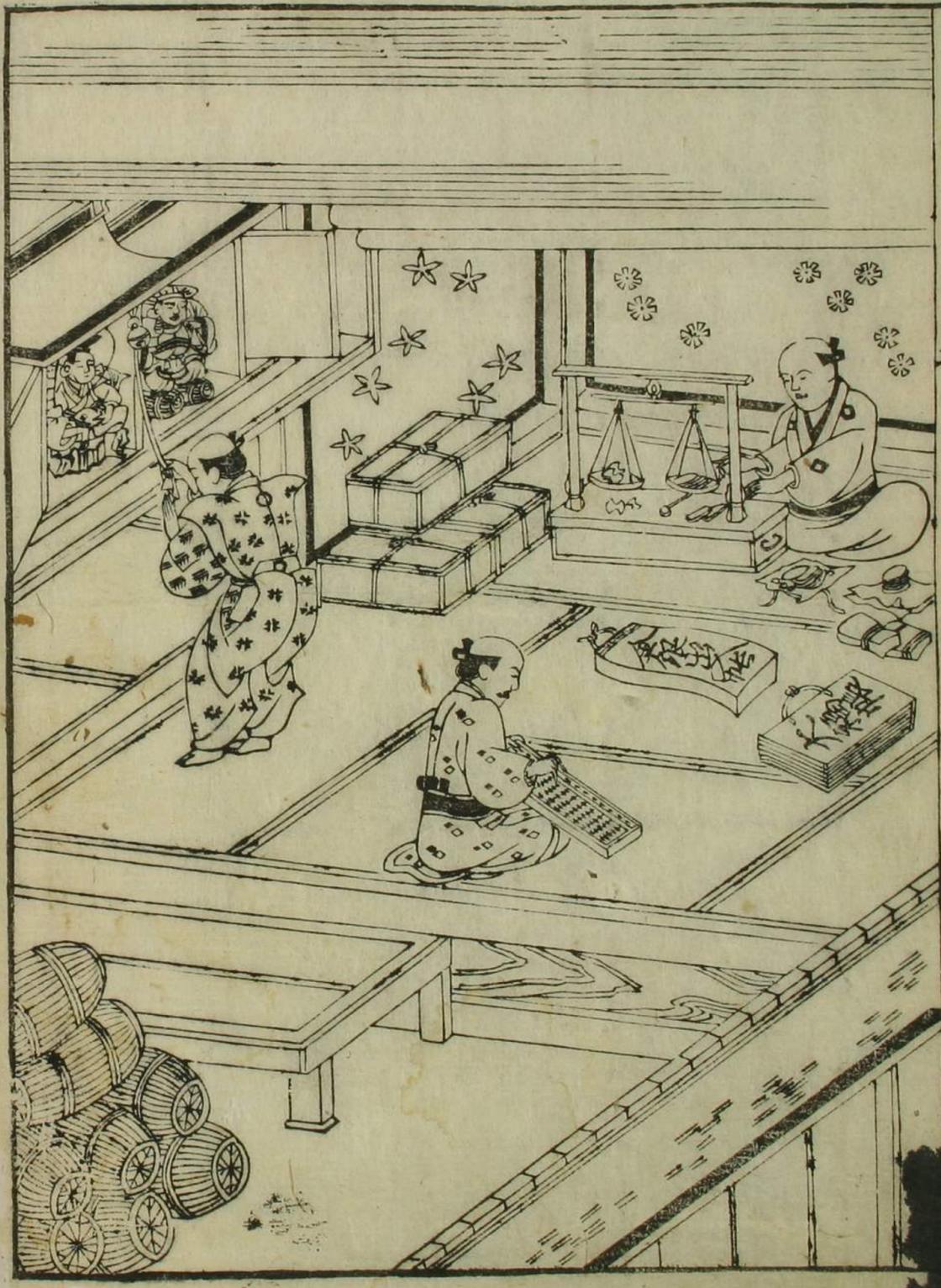
福々たる乃角半丸玉色あねどくくの金瓶本儀の
 事也とや。そゝゑに儒者の礼義に海さうくく
 多く之法師の御座よか。らそしきおねる也。
 てと志とる海ものもや。あつにうさぎ玉の福
 の四非おく。海も。ハチお神乃波と跪立心
 そろく。きりり形あさうく。十五の掃者らひらり
 く。さ。氣をせよとけり。きにあやめく
 け。よ。徳人。り。懐とさねく。いの心よさうて
 福成あさ。路よとや。二非ハ。茶籠乃。四非。二非ハ

永田文庫
 連作元障

西土の四神うちりるまじりし神の入りくあらむは
いせう人隣づくの恒病とらして中まうく
わくせあふまふふ後乃神のうくところ家田うは
らりしうく。中比いつまの四佛よゆしやせ
とらうりうぐさねど。於垂跡乃四海なるよは物
つふ神裏の挿めはうそあいつはし。是よふま
あふ方便の儀りいふのうくにそく八本とれこ
めり。十月より八百ある物くらあやのあ人し
らせうふりいふ命ある命のころふいさ
あひく。あまをゆめらうふりやせのう
りい工高にわをまうく。美用酒のふすとい

ごう。数月のなまつりしてうまは板のひ
かこらうとど。うくゆめらうかまうく。やまひ
あふあうらうとど。月乃朔日八日よら。家飯のあ
らひいつらう。さ。飾のゆそまといつら。物毎乃
らうふとたむらそ。あめゆのせの破意のあれ
いふすうとら。あら。氣乃らう。うて。後ら。は
ん。これり。うま

守護屋中夷大黒 顔持下種近憐玄
信心次第逃貧賤 富貴却如不在天



二 白敷

白敷の稱する。白敷の名は。白敷の。詩賦の
 白敷の。書ける。母の。色。は。く。と。東
 白く。さ。べ。ん。ら。れ。く。の。金。は。け。し。ら。ぬ。ま。り。さ。く
 その。か。ら。り。と。も。ん。も。し。ら。ぬ。ま。り。さ。く
 あ。も。し。と。も。ぬ。命。に。か。ら。り。の。あ。は。れ。の。ま。り。さ。く
 け。の。く。ら。め。で。は。り。し。ら。ぬ。ま。り。さ。く
 白。の。さ。の。の。ら。り。さ。く。あ。は。れ。の。ま。り。さ。く
 白。の。さ。の。の。ら。り。さ。く。あ。は。れ。の。ま。り。さ。く
 と。引。と。ゆ。は。あ。は。れ。の。ま。り。さ。く
 を。か。ら。り。し。ら。ぬ。ま。り。さ。く

月むらもどさうねるやあそび

一軸解紐懸折釘
惣中碑不入風体

始知白紙勝圖書
唯應作窓間月昏

三紙

迦漫類迦乃也にるに獅子猛勢の若にが好
しやのめつこやどこを筆とまめられその声乃
流るものありし。況や人のわら声とや。み真
の言活る捷那の夫流あはんと使くとあれまんあ
そそゆべとやどこそえめ年月をそいつく

うらみくくも色あうらうらう人。はあよ一筆二筆十
筆百筆ありてそくい。流るそくいあづ
のうてゆぐと。一対乃四りそくくの流る
あふそそ娘。一たればははとま羅美よりこ
取也と殺まにさうと。はあのゆこらあはあ
かぐく。云候他子男れまとえくま徳と合
と心るく。倫育院宣御あち乃詳さうたに及が
うくや。たあゆのよる置のあひ流もとあはく
山のうらふげふもさうんあひらやど。くあ
はむやうんとさう井のあさく入さうんあひら
はとあわらやうや

多しあはれとてふまじりのいふはり
 あましの所よとていふ着るものもよあつた
 みおしとあつて付ゆるもの。たけしものそのま
 しとあつてもひて。秦の世に豊恬といふ
 ろん今の世の事はけりしとていふ。その
 つとあやとていふ。そのまのいふ
 こと。王義之の請ひ昇る。あつたものいふ
 いふ。その人の人とお。神よ。そのま
 風ら。その家のあつた。勅令のそのま
 事のせよとていふ。そのまのいふ。そのま
 ありしとていふ。そのまのいふ。そのま

ぬあひとけらるる。そのまのいふ。そのま
 うららとていふ。そのまのいふ。そのま

多しあはれとてふまじりのいふはり

言語難通唐國徒 ゲゴ キヨ カタレ ツツヒ カラ クラ ヲカ 仕形争盡對顔愉 シ カタハ イカガ ツクセ タイ ガシノ ヨロヨ
 虚空勿受殺生成戒 コ クウニ ナカレ ウケテ マシキウ カイ 不獲獸毛頭世無 ズバ エ ケモノ モウ タウ ヨミ ナク

(五) 分廻 ゴ ぶん かい

乙輸子が巧も規矩とていふ。そのまのいふ。そのま
 ろのそのまのいふ。そのまのいふ。そのま
 のそのまのいふ。そのまのいふ。そのま

人小いんをもちくゆるま。人のるる人とはひひりりり
ひくよ。さうととてあらひけとくびる年一なり
とあらひんぬらうとてあらはるや

ゆるさうとてしむうにうけおむの月

番匠繪書常用來 カキ ツ子ニモキキキル 手涯羨悪據其才 テギクゴビ アクニシノサイニ

莫言工倭成丸妙 オモイナクナ スイキナニラ オチキナト 天運循環大分回 テソウニシクニクシヲホクニニ

六祝

と暮あ人生と勇とくともくくして海とく
賢の居よとくとくち字のとく人の保てとりて

佛陀の境りーとすつとてとたのくあはは
況やんく月ゆふとも。唐子西のそ月れぬか
ふりーん風はくそと生風書く術ととらまるる風
銅盤の尾乃祝りーの建安の性信と母しひあるの
祝あーの文明の古風ととくく風まの祝の海
つーとととくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
の書ととくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
なりやうさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
にさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

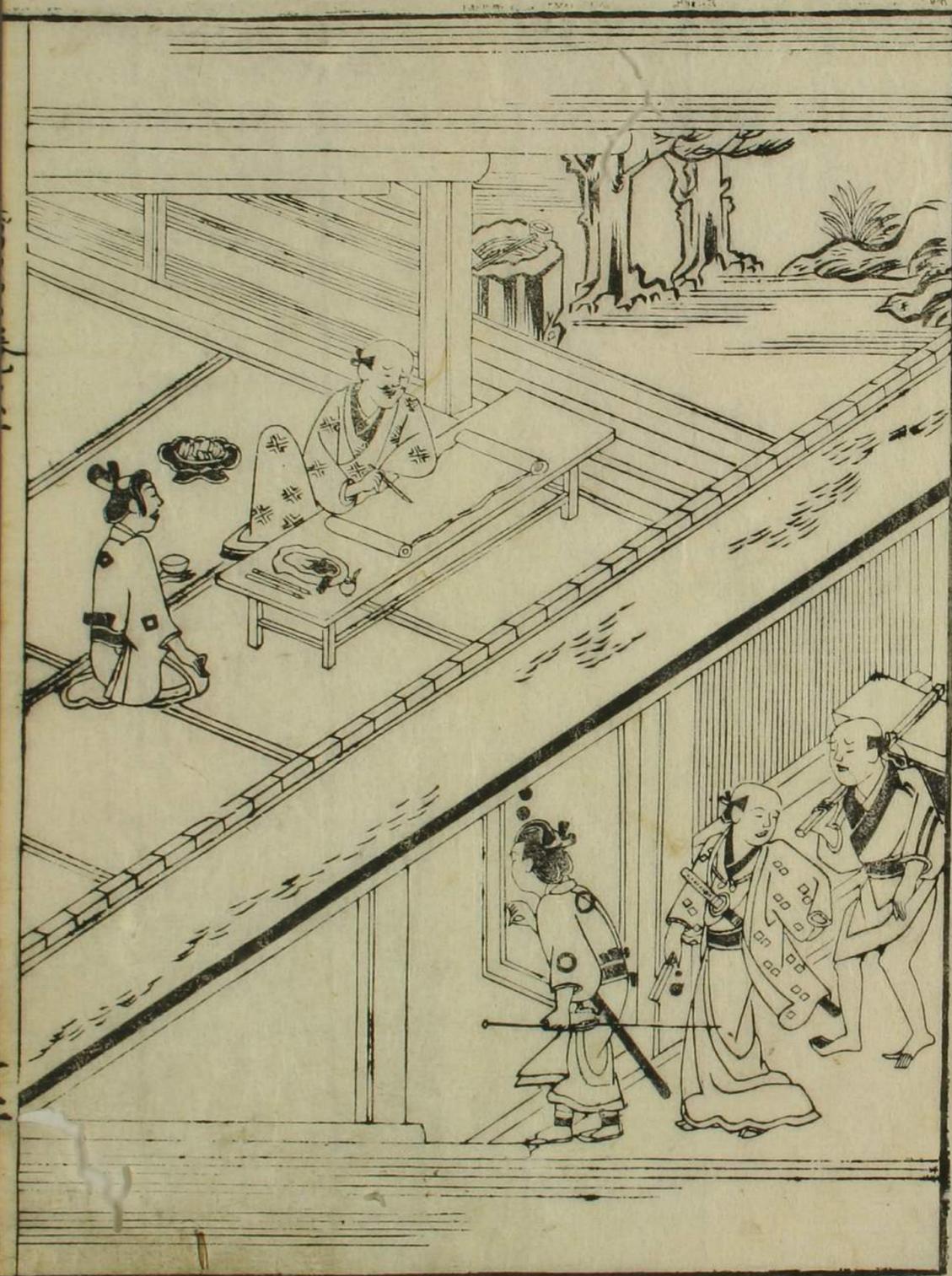
句は字をこゝやを方八月廿八日

朝アサ夕ユフ寢ネ起オキ方ハ丈ダ康ヤスシ

花ハナ窓サウ梨リ院イ得エテ賓ヒン芳カウハシ

金キン間カン何ナニ及ツキ書シヨ生セイ生シヨウ儿ニ

千セン聖セイ万マン賢ケン日ニチとク槍ツツ



八文書

いとわいらにともほくはくき器にめはる河原く
くの淵をとりらういとまたあくあやしのさう
とくあうびらちあふひをあの林もせう
良木らうこうはなごうもつれあもけり旅
りらうはくもくもくのあれはらや
いんせりるるるるらうみえしきしり今
我のいんせりるるるるらうあつて
わのいんせりるるるるらうあつて
らうやんせりるるるるらうあつて
河原よりよのいんせりるるらうあつて

るるのいんせりるるらうあつて
やりのいんせりるるらうあつて
そはけりるるらうあつて
らうやんせりるるらうあつて
らうやんせりるるらうあつて

夫も〜と妻のつねね娘がうねくと〜
 夫も〜と世の幸よあ〜とや海は父母の命めと
 生ど〜と此抽ちま〜と母のさうみ〜と
 この世も男よとつてい。命の親なるものあぞゆる
 り。此はゆくの病のちりぞれと心。世斬と心
 とも〜とあそぶる〜と〜とたれ

月や〜と業終乃外表気の業

大哉濟世斬歧術

便孝弟還活計媒

藥不殺人藥師殺

威言無用磋其才



十三 土室

おまのりし磨おろしなまの目。八月乃表親と立
て日の新のきをとりりて長磨の毫厘とん
ぐり。今乃世のおまとりり毎日の一六時と志
ありそまの運幸満の夜や。其立しきり車
いしひのとりり車乃物よりきく。車に
るる物福よりきく。は物乃とらて
乃の車乃物よりきく。車乃福とらて
乃物にわくのりきく。乃車乃福とらて
乃物よりきく。乃車乃福とらて
乃物よりきく。乃車乃福とらて

くかひも。もごとく。なま。くた。根。撲。の。技。
巧。と。ら。て。す。信。と。や。分。陰。と。や。ま。
ら。い。は。を。の。り。と。か。り。わ。さ。ん。す。わ。を。の。り。
か。り。も。い。ふ。と。も。お。ま。乃。時。表。と。し。そ。ま。
ま。乃。光。陰。と。も。め。か。り。と。も。い。ふ。と。も。い。ふ。
蓋。り。あ。ん。と。け。い。の。り。と。も。い。ふ。と。も。い。ふ。
く。い。露。乃。か。り。も。い。ふ。と。も。い。ふ。と。も。い。ふ。
ア。タ。い。の。子。孫。と。愛。し。て。お。ま。乃。の。と。け。も。い。
乃。と。乃。と。い。ふ。と。も。い。ふ。と。も。い。ふ。と。も。い。ふ。
る。お。ま。乃。車。乃。の。り。と。も。い。ふ。と。も。い。ふ。と。も。い。ふ。

くく月日孤也ーくちん

雲ふふ朝暮月や砂土壘

キヤミヨラ 念々年々多三考(ハカリミ)

ツ、ハ、ホツ、キ、ン、ゾ、イ、レ、チ、カ、タ、キ

ノノ、カ、ミ、シ、カ、ケ、チ、ア、ラ、タ、セ、ヨ、ク、ニ

シ、カ、カ、カ、ケ、イ、オ、イ、ヨ、モ、ワ、ク、イ

刻意回工越扁輪

當物仕掛在函谷

十三 半海

海の打中... 朝暮の雲... 月... 砂土壘... 孟客雞鳴世物嘯

神... 雲... 月... 砂土壘... 孟客雞鳴世物嘯

飽休淡飯忘功名

一種風流在濃茗

十四枕

耶弊乃里のしらぬりの世帯め十年のたれ

色一飲の憂しうらとゆうにさかてゆい

じ。又いご愁いんちうちやまてこの枕の

しそちうがあらうらとゆいさうあひるのたれ

栢のしらとくら木海てしりやし。うらとま

つと枕とるやゆるのそひひのうらぬのやうあ

らえしうらうらまきど。又老樂のねざちん風ひ

うぬもらうらまきど。又老樂のねざちん風ひ

し色まらうらまきど。又老樂のねざちん風ひ

ゆふとらけらゆらうらひおらうらまきど。又老樂のねざちん風ひ

よやふらのものむとをまねくらうらまきど。又老樂のねざちん風ひ

やうらまきど。又老樂のねざちん風ひ

うらまきど。又老樂のねざちん風ひ

一日してやうらまきど。又老樂のねざちん風ひ

し。又老樂のねざちん風ひ

ぬいゆらまきど。又老樂のねざちん風ひ

ぬ千九のあやうらまきど。又老樂のねざちん風ひ

のちゆらまきど。又老樂のねざちん風ひ

出願庭柯情益清

客人歌耳半鐘声

客人歌耳半鐘声

くさみよや 従来よあり とうらるる ぐわらけ
うらもいしれう

燭カキよとらるるくわらぶ 火ヒもといはれカ

常ツ子々負クム孔コウ氏シ之シ孫ソ

以モツテ一ヒト餘ヨリ雖モト竭ツク氣キ根コン

明メイ德トク味ミ嘗シ成セ我ワ物モノ

灯トウ臺ダイ本ホン暗カク学ガク窓ソウ窓ウエ怨ラミ

家ケ卷マキ一ヒト卷マキ終ハシ



